健常心筋における空腹時¹⁸F-FDG 集積亢進の意義

中野	顯,	李	鍾大,
宇隨	弘泰",	福本	雅和,
上田	孝典",	土田	龍郎,**
定藤	規弘,***	米倉	義晴***

清水	寬正,	杉山大	、枝子*
見附	保彦,	和田	嗣業*
高橋	範雄***	石井	靖***

〔背景・目的〕

近年、¹⁸F-fluorodeoxyglucose (FDG) positron emission tomography (PET)を用いて心筋糖代 謝を評価することが可能となった。なかでも、空腹 時の FDG-PET は、血流イメージとの同時評価で、 血流低下領域における糖代謝の亢進の有無を観察 することによって心筋 viability を正確に評価する ことができる有用な検査法である。しかし、虚血心 筋のみならず健常心筋においても空腹時の FDG 集 積亢進がしばしば観察され、この現象の中には血中 代謝基質の状態(耐糖能異常,低遊離脂肪酸血症)の みでは説明不可能なものも少なくない。そこで、我々 は健常心筋における空腹時糖代謝の亢進の意義を FDG-PET を用いて検討した。

〔対象・方法〕

当院にて、空腹時 FDG-PET を施行した心疾患連 続69例を対象とした(男性51例,女性18例、平均年齢 61±7歳、糖尿病例は除外)。原因疾患は、心筋梗塞42 例,狭心症24例(冠攣縮性狭心症19例を含む),その 他3例であった。¹³N-ammonia(NH₃) PET で正常 血流を示す領域(梗塞,狭心症責任血管,攣縮血管領 域は除く)での、びまん性 FDG 集積亢進の有無によ りA群(16例; Fig.1)とB群(53例; Fig.2)に分 け、1)血中代謝基質値、2)近接する虚血 event の 有無(心筋梗塞発症2週以内,冠攣縮性狭心症活動 期(最終発作から2週以内),不安定狭心症例を active 群と定義)について検討した。FDG 集積は、PET の 左室水平断層像を視覚的に評価し、さらに症例毎に RCA, LAD, Cx の3領域を設定し、平均の Standardized Uptake Value (FDG-SUV)も算出した。 〔結果〕

1. 各群の FDG-SUV は、A群6.04±2.40(29領域),

*	福井医科大学	第一内科
**	同	放射線科
***	司	高エネルギー医学研究センター

B群2.02±0.80(84領域)で有意にA群で大であっ た(p<0.01, Table1)。尚、当院にて施行した糖負 荷時 FDG-PET の健常心筋における FDG-SUV は、 平均10.1±2.60である。

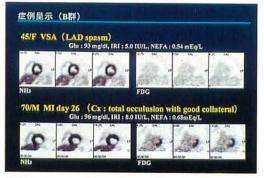
2. 血中代謝基質は、glucose (98±10mg/dl vs 98±12mg/dl), insulin(7.6±5.5IU/l vs 8.1±3.9 IU/l)には差を認めなかったが、NEFA はA群で有 意に小であった(0.47±0.16mEq/l vs 0.62±0.28 mEq/l, p<0.05, Table 2)。当院における NEFA の 正常値は0.14~0.85mEq/l である。

 原因疾患は、A群が心筋梗塞9例,狭心症7例 (冠攣縮性狭心症6例)。B群が心筋梗塞33例,狭心 症17例(冠攣縮性狭心症13例),その他3例であった。
A群16例中、Active 群は10例(63%)であった のに対し、B群の53例では、5例(9%)にすぎなかっ た(p<0.001, Table 3)。

[まとめ]

虚血性心疾患例における正常血流領域での空腹 時心筋 FDG 集積亢進は、血中 NEFA と関連してい た。しかしながら、A群において明らかに心筋虚血 event 近接期の症例が多く、虚血 event そのものも しくは、それに伴う局所心機能低下の代償機転とし て、健常心筋でも糖代謝の亢進が起こり、FDG の集 積亢進をもたらすと推察された。





▲ Fig. 2



両群の血中代謝基質 (group A vs group B) Glucose: 98±10 mg/dl vs 98±12 mg/dl (NS) Insulin: 7.6±5.5 IU/l vs 8.1±3.9 IU/l (NS) NEFA*: 0.47±0.16 mEq/l vs 0.62±0.28 mEq/l (p=0.05) *NEFAの正常値: 0.14+0.85 mEq/l

▲ Table 1

▲ Table 2

	Active群	Others
A群 (n = 16)	10 (63%)	6 (37%)
B群 (n = 53)	5 (9%)	48 (91%)

▲ Table 3